

平成21年度 第2回一関市工業振興戦略推進会議 会議資料

日時 平成21年11月10日(火) 午後3時～

場所 一関市役所 会議室棟 第4会議室

次 第

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

●一関市の工業振興に向けた今後の取り組みについて

- ・各委員からの意見集約結果と具体の活動について
- ・企業への聴き取り調査の実施について

P1 ~ 15

●来年度実施を検討している事業について

P 16

4 その他

5 閉会

一関市工業振興戦略推進会議 委員名簿

	企業・機関・団体名等	職名等	氏名	備考
1	東北日本電気(株)	シニアエキスパート	高橋 優	副委員長
2	ソニーイーエムシーエス(株) 千厩テック	統括部長	成毛 雅行	
3	(株)アーアル研究所	工場長	伊東 盛夫	
4	(株)日ピス岩手	総務グループリーダー	藤野 浩之	
5	千住電子工業(株)	工場長	菊池 光明	
6	(株)オヤマ	常務取締役	小山 雅也	
7	(株)サクシーディング	専務取締役	赤堀 剛司	
8	(有)光成工業	代表取締役	村上 耕一	
9	(有)セキエイ製作所	常務取締役	稲邊 恵美子	
10	一関工業高等専門学校	校長	丹野 浩一	委員長
11	一関商工会議所	専務理事	小野寺 弘文	
12	(財)岩手県南技術研究センター	所長	小田嶋 次勝	
13	一関公共職業安定所	所長	西條 與吉	
14	岩手県県南広域振興局 経営企画部産業振興課	主幹兼課長	宮澤 一久	

(敬称略)

「一関市の工業振興に向けた今後の取り組み」に対する委員意見

質問項目	主な委員意見
基本的考え方	・ 人材育成は企業ニーズをふまえ、十分な検討が必要
	・ 人材育成事業のマスタープランが必須
	・ 農商工連携は、地域資源を掘り出して付加価値のある製品をつくる必要がある
	・ 企業の技術・技能・設備の現状把握を行い、情報発信するのが良い
資格取得支援講座	・ 人材育成する分野、到達レベルを具体化することが必要
	・ 公害防止管理者、品質管理、エネルギー管理士、経営労務、技能士等の資格取得支援
	・ 講座内容評価を行い効果を確認しながら、次講座にフィードバックしていくことが必要
企業OB等人財バンク	・ 技術・技能向上に必要な人財を明確にするため、企業ニーズの把握が肝要
	・ 人財バンクの活用は資格取得支援から始め、事業経営強化へ進むのが良い
	・ OBだけでなく、現役社員がリアルな講師となるのではないかな
	・ 費用や事務量を抑え効率的に行うためにも、システム構築に費用をかけないことが望ましい
検査分析測定機器の企業間相互利用	・ 機器等の有効活用促進のための「マッチング機関」の立ち上げが必要
	・ 守秘義務の問題や機器等のタイムリーな利用が難しいなど、ハードルが高いのではないかな
農商工連携	・ 研究会等による意見交換の場を設定すべきではないかな
	・ 現有シーズに「工」の技術をプラスした事業の創出を目指すこと
	・ 高専等や公設試と連携を図りながら進めていくのが良い
	・ シーズ誘導型であっても、市場や顧客のニーズを踏まえた事業化であることが肝要
製造業集積構想	・ 高専、県南技研をどう活用し、支援するかが他地域との棲み分けとして大事
	・ 「環境」、「エネルギー」に関連する研究開発型企業の誘致

「企業への聴き取り調査」に係る調査結果傾向

調査項目	傾向
資格取得支援講座関連	・ 製造業全般に必要な「品質管理」や「環境」に関連した資格取得支援をし、地域の特徴とする手もある
	・ 公害防止管理者、QC検定、エネルギー管理士、環境管理士
	・ 機械加工、プレス加工、溶接技能等の資格取得支援を望む
	・ 受講後のフォローアップの充実
	・ 経営者、管理者層の教育も必要
	・ 資格が取得できるレベルの講座が望ましい
企業OB等人財バンク	・ OB等の登録見込み情報は無し
	・ 人材育成、工程改善、生産・物流管理などに活用の可能性がある
	・ OB等の活用条件としてはコスト重視
	・ 管理・監督職の教育に利用できる
	・ OB等の指導の際には、前職の企業風土を持ち込もうとされるのは困る
	・ 現役社員の講師派遣についてはレベル等により、ケースバイケースの対応となる
検査分析測定機器の企業間相互利用	・ 利用可能な検査分析測定機器の情報発信をし、企業同士が直接やりとりする方法が良いのではないか
	・ 利用料金が安価なことと機密保持が絶対条件

※一関市工業振興戦略推進会議の委員企業8社への聴き取り分である

一関市の工業振興

①工業振興計画に基づく取り組み

- 「資格取得支援向け講座」に向けた調査
- 「企業OB等人財バンク」の設置・活用に向けた調査

今後の工業振興の取り組み

【資格取得支援向け講座(案)】

・製造業全般に必須である「品質管理技術」の向上を目指し、「QC検定3級」資格取得のための講座を開講する。

【企業OB等人財バンク(案)】

(株)北上オフィスプラザが(独)中小企業基盤整備機構より受託している「新現役チャレンジ支援事業」の新現役データベースに登録するシステムを活用。

【検査分析測定機器の企業間相互利用(案)】

検査分析測定機器の企業間相互利用を促進するため、当該機器の

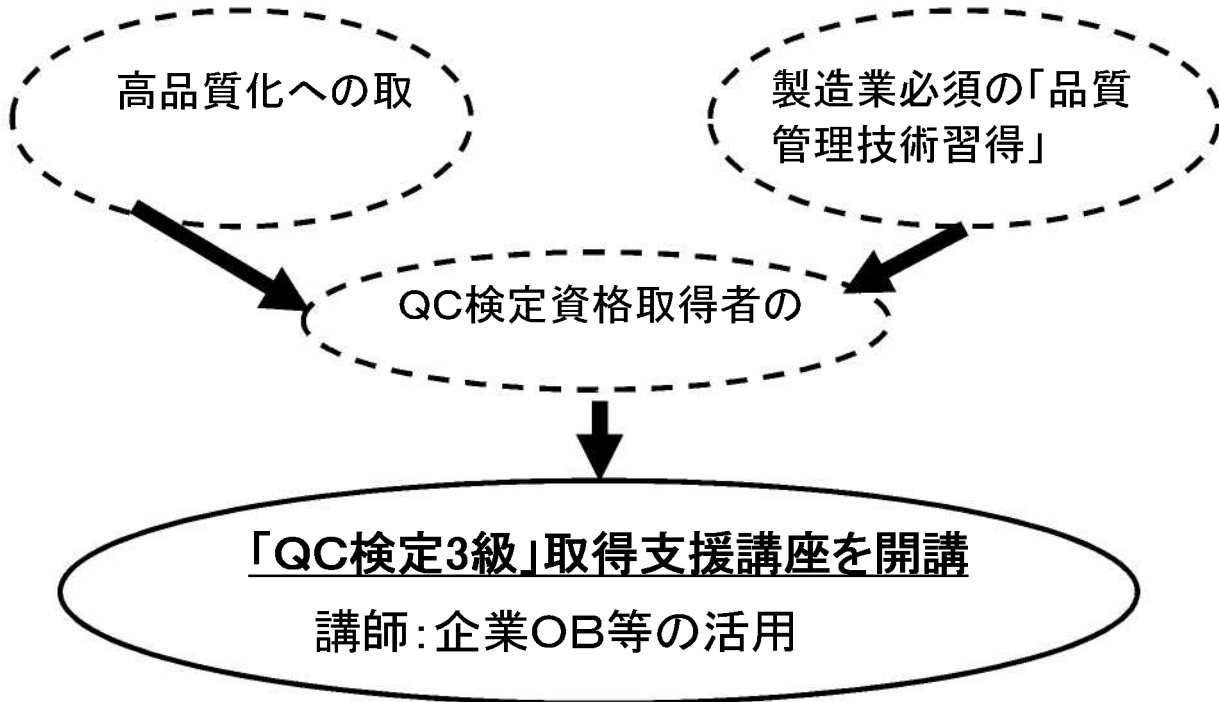
②地域の資源を活用した産業振興

農商工連携による新産業の創出

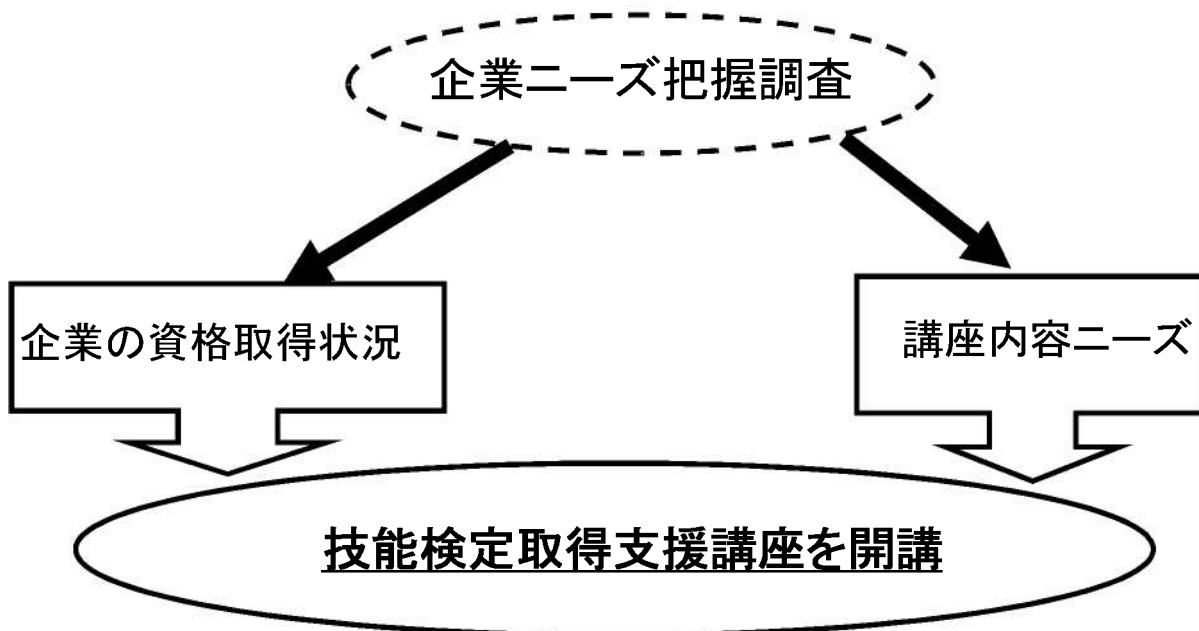
農商工連携を検討する意見交換の場の設定

【資格取得支援向け講座】

①「品質管理技術」の向上



②「技術・技能」の向上



品質管理検定レベル表 — 3級

◆受験されるみなさまへ — レベル表の見方について◆

- ・各級の試験範囲は、各欄に示されている範囲だけではなく、その下に位置する級の範囲を含んでいます。
- ※3級の場合、3級に加えて4級の範囲を含んだものが3級の試験範囲とお考えください。

※凡例 — 必要に応じて、次の記号で補足する内容・種類を区別します。

() : 注釈や追記事項を記しています。

《 》 : 具体的な例を示しています。例としてこの限りではありません。

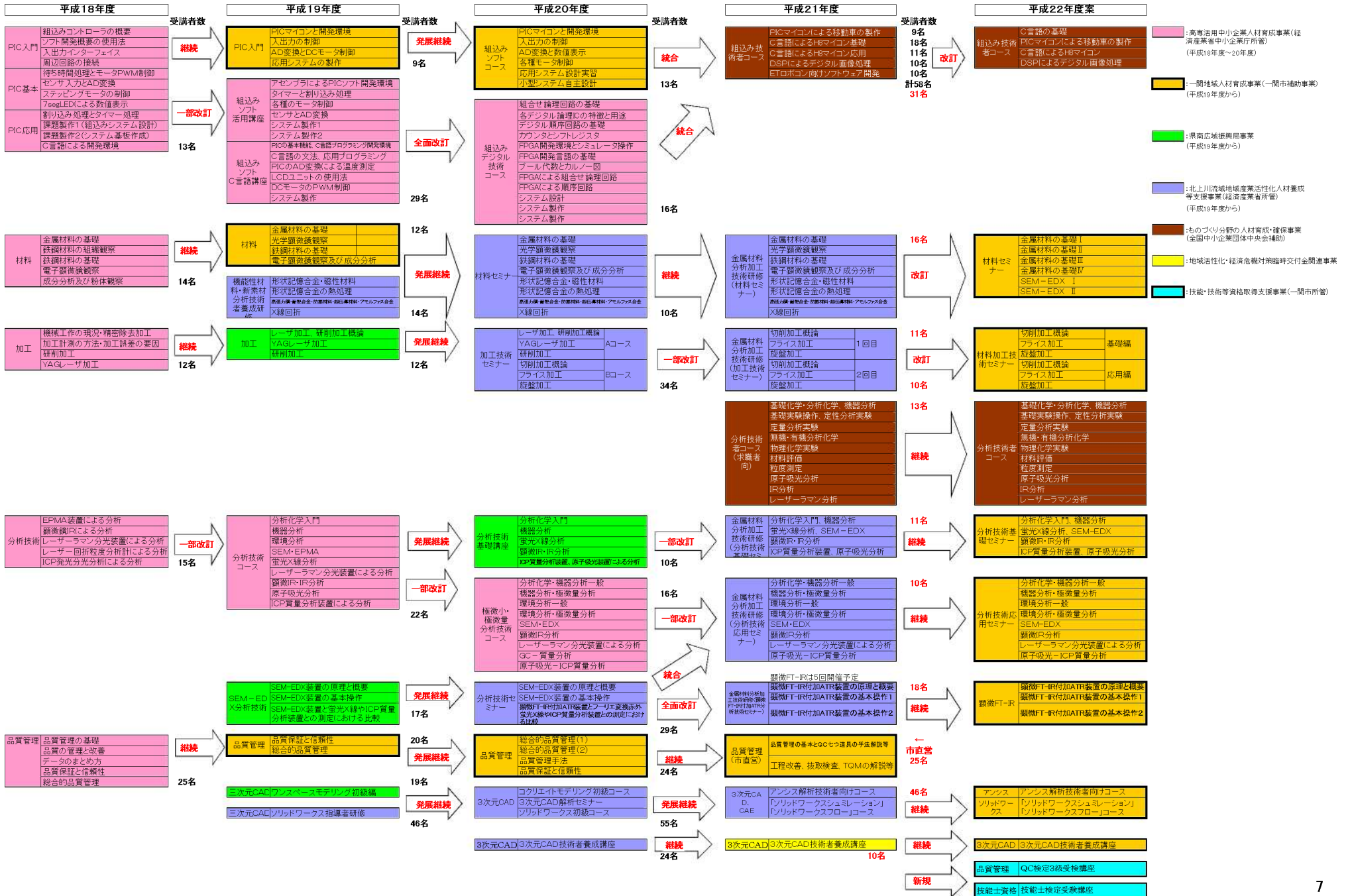
【 】 : その項目の出題レベルの程度や範囲を記しています。

級	認定する知識と能力のレベル	対象となる人材像	試験範囲	
			品質管理の実践	品質管理の手法
3級	<p>QC 七つ道具については、作り方・使い方をほぼ理解しており、改善の進め方の支援・指導を受ければ、職場において発生する問題をQC的問題解決法により、解決していくことができ、品質管理の実践についても、知識としては理解しているレベルです。</p> <p>基本的な管理・改善活動を必要に応じて支援を受けながら実施できるレベルです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業種・業態にかかわらず自分たちの職場の問題解決を行う全社員《事務、営業、サービス、生産、技術を含むすべて》 ・品質管理を学ぶ大学生・高専生・高校生 	<ul style="list-style-type: none"> ■ QC 的ものの見方・考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・品質第一 ・顧客満足《マーケットイン、顧客指向》 ・プロセス重視（品質は工程で作るの広義の意味） ・重点指向《選択、集中、局部最適》 ・PDCA、SDCA、PDCAS ・事実に基づく管理 ・ばらつきの管理 ・後工程はお客様 ・標準化 ・再発防止と未然防止 ・見える化《管理のためのグラフや図解による可視化》 ■ 管理と改善の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・方針管理とは【定義と基本的な考え方】 ・日常管理（維持と改善）【定義と基本的な考え方】 <ul style="list-style-type: none"> 維持活動と改善活動 管理項目と点検項目 ・小集団活動《QCサークル活動》とは【定義と基本的な考え方】 ■ 品質とは【定義と分類】 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの品質とできばえの品質 ・品質特性とは（代用特性を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取り方・まとめ方【定義と基本的な考え方】 <ul style="list-style-type: none"> ・データの種類 ・母集団と標本 ・サンプリングと誤差 ・基本統計量《平均値・メディアン・標準偏差・平方和・分散・変動係数》とその計算の仕方 ・工程能力指数 (C_p, C_{pk}) とは【定義と基本的な考え方】 ■ QC 七つ道具の活用【見方、作り方、使い方】 <ul style="list-style-type: none"> ・パレート図 ・特性要因図 ・チェックシート ・ヒストグラム ・散布図 ・グラフ ・管理図 ($\bar{X}-R$管理図のみ) ・層別 ■ 新QC七つ道具とは【名称と使用の目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・親和図法 ・連関図法 ・系統図法 ・マトリックス図法 ・マトリックス・データ解析法 ・アロー・ダイヤグラム法 ・PDPC法

級	認定する知識と能力のレベル	対象となる人材像	試験範囲	
			品質管理の実践	品質管理の手法
3級			<ul style="list-style-type: none"> ■ プロセス管理 <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスとは【定義と基本的な考え方】 ・工程管理の基本的な方法 <ul style="list-style-type: none"> QC工程図(表)の見方 作業標準書(フローチャートを含む)の見方 異常の発見と報告(法令順守を含む) ■ 問題解決 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型QCストーリーの進め方 ・QC的問題解決ステップと各ステップの留意事項 ■ 検査及び試験 <ul style="list-style-type: none"> ・検査とは【定義と基本的な考え方】 ・測定の基本《測る・量るとは、計測器とは》 ・検査の種類《受入、購入、工程内、最終、出荷》と方法 <ul style="list-style-type: none"> 《全数、抜取、無試験、間接》 ■ 標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・標準化の目的と意義 ・社内標準化の目的と意義 	

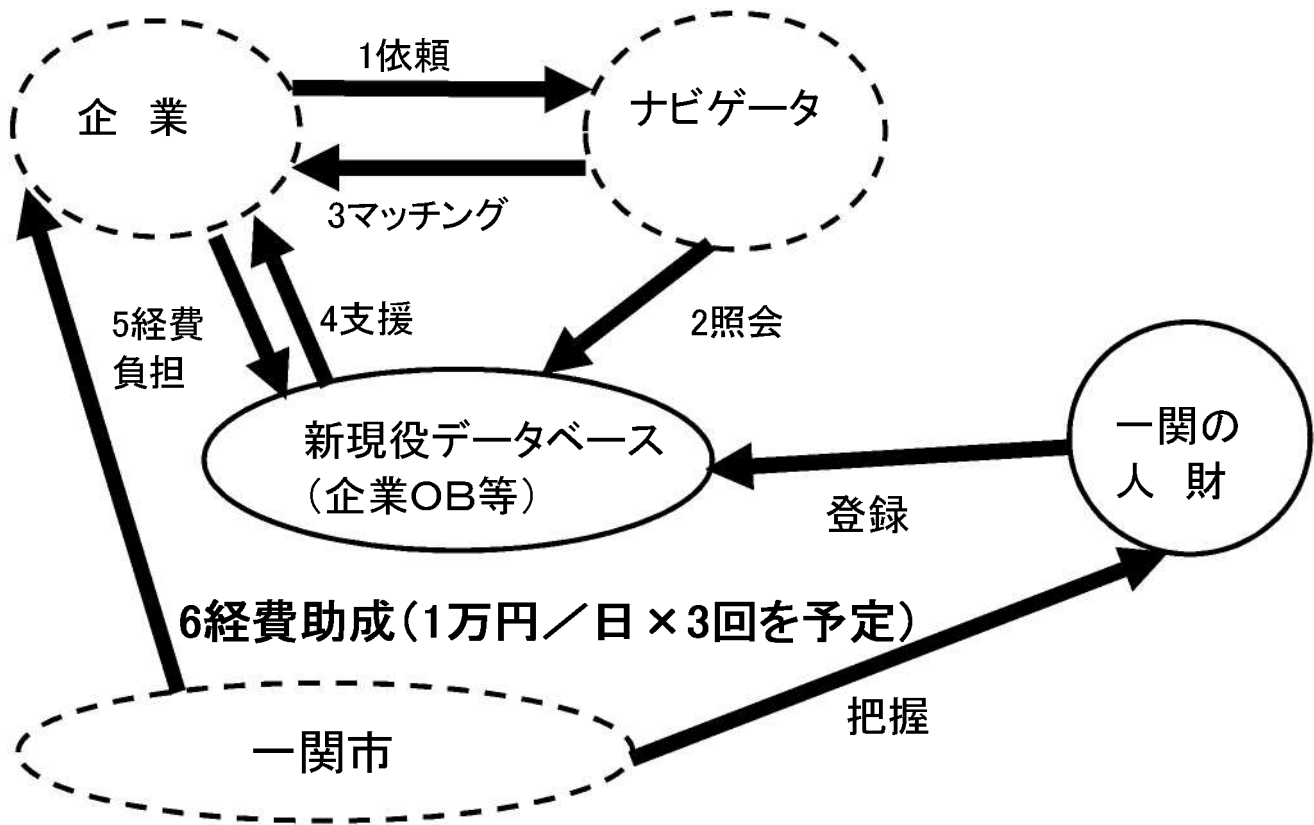
【補足資料3】

カリキュラムのフロー(人材育成事業に関連する一連の流れ)

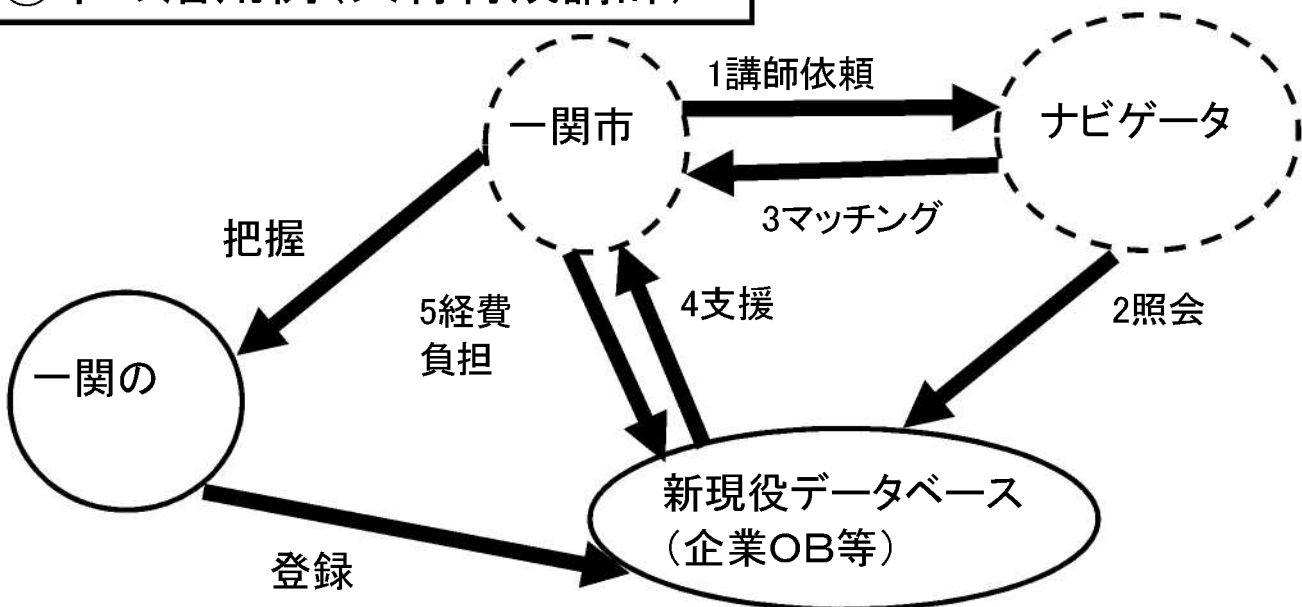


【企業OB等人財バンク】

①企業の活用例



②市の活用例(人材育成講師)



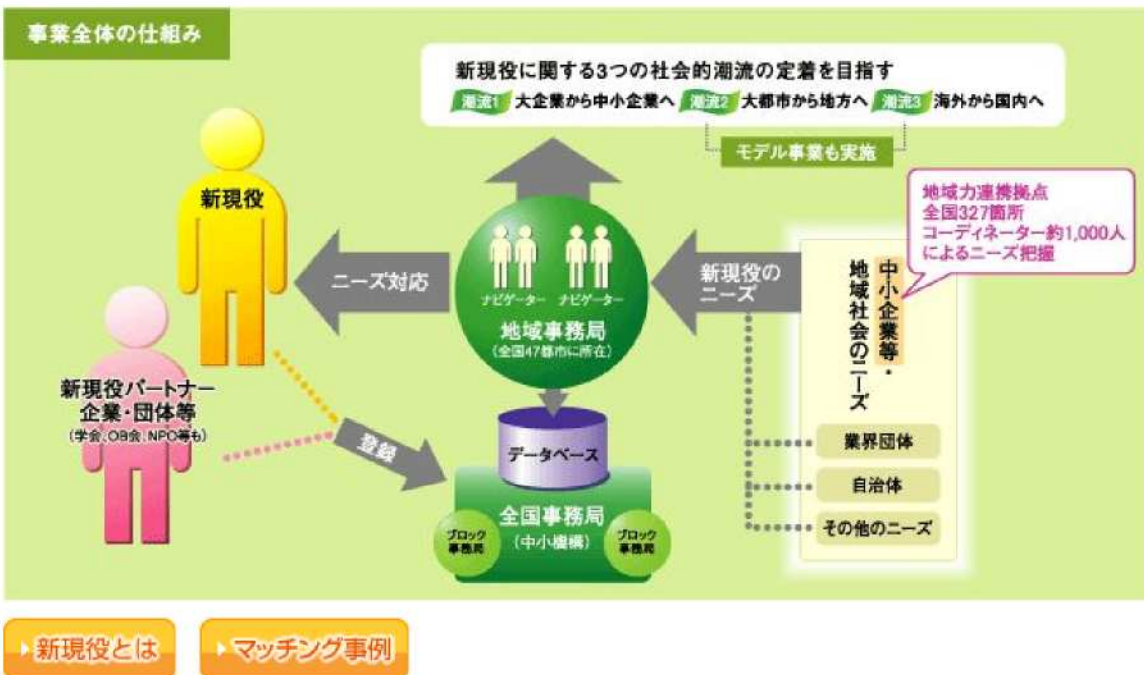
[トップページ](#) > 事業の概要

新現役チャレンジ支援事業の概要

中小企業庁による事業です。

社会貢献意欲の高いシニア人材に活躍していただける場を提供し、地域の中小企業や各種団体などを支援する目的で、平成20年度より開始されました。(独)中小企業基盤整備機構が全国事務局をつとめ、全国各地にブロック事務局と地域事務局が設置されています。

全国各地の地域事務局に所属している「ナビゲーター」が、中小企業や各種団体のニーズを探り、人材データベースに登録された新現役人材とのマッチングを図ります。「ナビゲーター」は、新現役の方と企業の橋渡し役として双方のニーズを収集し、丁寧なコンサルティングを行います。



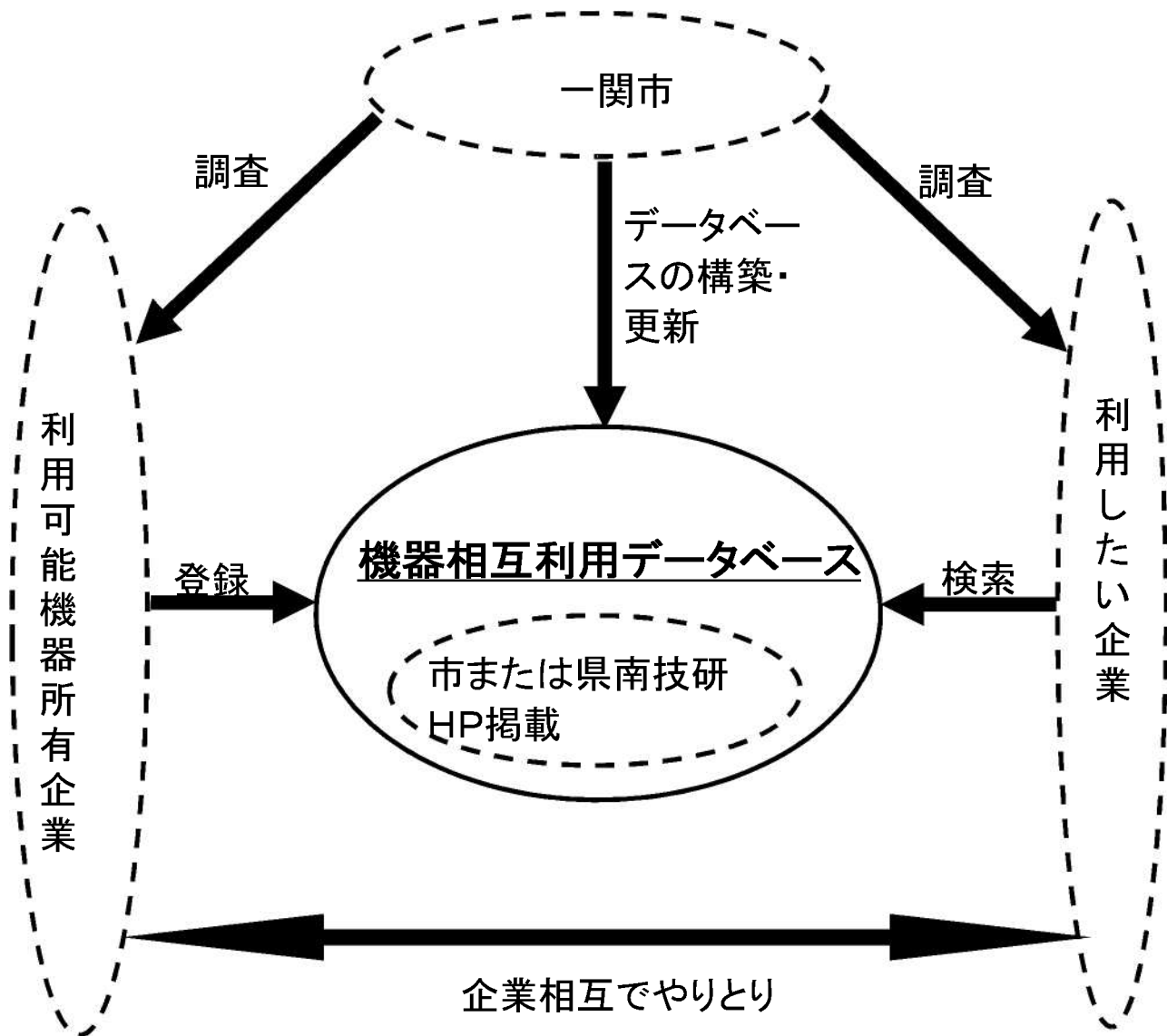
新現役が培った手腕を「カこぶ」で図案化。地域と中小企業の活カアップへの力強い支援を三角形で表現しています。
 制作者: 伊藤 慎(平成20年8月制作 多摩美術大学4年生)

▲本事業に関わる一般的なお問い合わせ: 中小企業基盤整備機構 新事業支援部 新現役チャレンジ支援 全国事務局 ☎03-5470-1618

[サイトマップ](#) [利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2004-2010 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN

【検査分析測定機器の企業間相互利用】



機器データベース

- [石巻専修大学](#) (13)
- [一関工業高等専門学校](#) (4)
- [岩手県南技術研究センター](#) (30)
- [仙台高等専門学校\(広瀬\)](#) (12)
- [東北学院大学](#) (66)
- [東北工業大学](#) (0)
- [東北職業能力開発大学校](#) (189)
- [東北文化学園大学](#) (9)
- [宮城教育大学](#) (0)
- [仙台高等専門学校\(名取\)](#) (6)
- [宮城大学](#) (10)
- [宮城県産業技術総合センター](#) (52)

機器分類別

- [分析・観察関連](#)
- [精密測定関連](#)
- [機械・加工関連](#)
- [材料関連](#)
- [半導体関連](#)
- [光関連](#)
- [電気・電子関連](#)
- [情報関連](#)
- [設計関連](#)
- [建築・土木関連](#)

岩手県南技術研究センター

[顕微FT-IR\(顕微フーリエ変換赤外分光光度計システム\)](#)[スパッタリング装置](#)[触針式表面形状測定器](#)[結晶制御育成装置](#)[熱物性テスター](#)[レーザーフラッシュ法熱定数測定装置](#)[非晶質\(アモルファス\)金属作製装置](#)[レーザー顕微鏡](#)[レーザー回折粒度分析計](#)[精密万能試験機](#)[小型材料試験機](#)[微小硬さ試験機](#)[高真空熱処理炉](#)[回転磁場中熱処理炉](#)[超高速昇温電気炉](#)[遊星ボールミル](#)[加圧重合器](#)[デジタル実体顕微鏡](#)[原子吸光光度計](#)[ICP質量分析装置](#)[蛍光X線分析装置](#)[赤外顕微鏡](#)[顕微鏡レーザーラマン分光装置](#)[ガスクロマトグラフ](#)[走査型電子顕微鏡\(SEM-EDX\)](#)[走査型プローブ顕微鏡](#)[X線回折装置](#)[分極測定装置](#)[超純水製造装置](#)[プレスマシン\(BRIQUETTING PRESS\)](#)[<戻る](#)[▲ページの上へ](#)

人気のあるページ

- [熱分析システム\(TG/DTA、DSC、TMA/SS\)](#)
- [ガスクロマトグラフ/水素イオン化検出器\(GC/FID\)](#)
- [マスコロイダー](#)
- [X線光電子分光分析装置 XPS、ESCA](#)
- [太田 博雄](#)

ICP質量分析装置

機関名: 岩手県南技術研究センター
所属: 環境機能応用研究部門
メーカー名: セイコーインスツルメンツ SPQ9000

仕様

特徴

物質を溶かした溶液サンプルの微量金属イオン濃度を、ppbオーダーで分析・測定。

事例

利用方法

関連サイト

分類

分析・観察関連

備考

お問い合わせ用ID:K15001

[<戻る](#)

[▲ ページの上へ](#)

人気のあるページ

- [熱分析システム\(TG/DTA、DSC、TMA/SS\)](#)
- [ガスクロマトグラフ/水素イオン化検出器\(GC/FID\)](#)
- [マスコロイダー](#)
- [X線光電子分光分析装置 XPS、ESCA](#)
- [太田 博雄](#)

一関市産業振興基本条例をここに公布する。

平成21年 8月26日

一関市長 浅井 東兵衛

一関市条例第31号

一関市産業振興基本条例

一関市は、北上川や栗駒山、室根山など豊かな自然に恵まれ、古くから農業が盛んな地として発展を遂げるとともに、恵まれた地理的条件や先人たちのたゆまぬ努力により、都市化、工業化が進み、岩手県南・宮城県北の中核都市として発展してきた。

しかし、近年の本市の産業をとりまく環境は、少子高齢化、国際化、技術の革新、経済構造の変化等を受け、持続的な発展の基盤が揺らぐなど一層厳しいものとなっている。このことが、地域経済の伸び悩みの大きな要因にもなっている。

このような状況を克服し、健康で豊かな市民生活を営むためには、これを支える地域産業の振興が欠かせないものであり、競争力のある本市の産業構造を確立することはもとより、地域産業の果たす役割と意義を行政、市民及び産業関係者が再認識し、それぞれが主体的に行動していくことが重要である。

ここに、地域産業は本市の発展の基盤であることを確認し、この条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、一関市の産業振興に関する基本的事項を定めることにより、産業基盤を強化し、及び産業の発展を促進し、もって市民生活の向上を図り、調和のとれた地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(基本的な施策)

第2条 地域産業の振興に係る基本的な施策の大綱は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 地域産業基盤及び環境の整備改善に関する施策
- (2) 地域産業に関する調査及び情報の収集、提供等に関する施策
- (3) 人材育成及び担い手づくりに関する施策

(市長の責務)

第3条 市長は、前条の施策を実施するにあたっては、国及び県等との連携を図りつつ、商工業者、農林業者及び関係団体（以下「事業者」という。）の自主性を尊重し、総合的に推進しなければならない。

(事業者及び経済団体の努力)

第4条 事業者及び経済団体は、生活環境との調和並びに市民生活の安定及び安全確保に配慮するとともに、自らの創意工夫により経営基盤の安定及び強化、経営の革新、人材の育成、従業員の福利厚生の充実に努めるものとする。

(市民の理解と協力)

第5条 市民は、地域産業が地域経済に寄与するものであることを認識し、その健全な発展に協力するように努めるものとする。

(産業振興会議)

第6条 市長は、第2条に掲げる地域産業の振興に関する基本的な施策についての重要事項を調査、審議するため、一関市産業振興会議を置く。ただし、産業振興会議の設置は別に定める。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成21年10月1日から施行する。

来年度実施を検討している事業について

(工業振興計画 基本理念)

人と地域を活かし 創造性豊かなものづくりを目指します

人づくりによるものづくり技術力の向上

●ものづくり人材の育成と確保

人材育成プロジェクト

- 若者の地元定着
- 技術・技能習得・資格取得による技術力の向上
- 小中学生から企業経験者までの各ステージにおけるひとづくり(育成・確保・)

地域企業の活性化と地域連携による競争力の向上

●地域企業の技術力・経営力強化
●課題解決型ネットワークの構築

地域企業活性化プロジェクト

- 技術力強化による高品質・高付加価値化なものづくり

地域連携プロジェクト

- 地域企業の有機的な連携と課題解決型ネットワークの構築

企業誘致による産業集積

●企業誘致の推進
●工業を支える環境(基盤)の整備

企業誘致推進プロジェクト

- 北上川流域・広域仙台・沿岸地域の連携を図る重要な位置にある優位性と、関係機関と連携した多様なネットワークによる誘致活動の強化

環境整備プロジェクト

- 企業が立地・活動しやすい環境の整備

【継続予定】「工業振興戦略推進会議」

【継続予定】次世代ものづくり人材育成事業

新入社員の社会人としてのスキル向上とともに、地域で働く若者の間に企業の枠を超えた連帯感を醸成し、ものづくりに積極的に取り組むグループの形成を促進し、地域への定着及び地域企業の一層の連携を図るため、企業新入社員が一同に会する研修を実施

【新規予定】技能・技術等資格取得支援事業

企業ニーズの高い、技能・技術等の資格取得を支援するための研修会を試験的に開催

【継続予定】地域企業情報ガイダンス開催事業

次年度に高専を卒業する学生(4年生)と父兄及び教職員を対象とした交流会を開催し、地域企業への理解と地域内の就職を促進し、学生の就職支援や若者定住を促進するとともに、地域企業に対するインターンシップの受け入れ理解を深める

【継続予定】就職ガイダンス開催事業

ふるさと就職ガイダンス 年3回(春、夏、秋)開催

【新規予定】企業OB等人材バンク事業費

（北上上オフィスプラザが、H21から(独)中小企業基盤整備機構より受託している「新現役チャレンジ支援事業」と連携して実施。同支援事業の企業OB等バンク登録者を活用した際の謝金や旅費の一部を助成。

【継続予定】県南技術研究センター運営費補助金

【拡充予定】地域企業経営強化支援事業費補助金

市内企業の事業拡大を支援し、地域の雇用創出を図るため、企業の設備投資に要する経費の一部を助成

【拡充予定】人材育成事業費補助金

【拡充予定】新製品・新技術開発事業費補助金

市内の企業または個人が、県南技術研究センターもしくは大学等と共同または委託により新製品・新技術開発を行う際に研究費の一部を助成し、製品・技術の高付加価値化を促進する(対象経費の1/2 補助上限額 500千円)

【新規予定】取引支援促進展示会等出展経費助成事業

岩手県等が開催する展示会及び商談会への企業の出展経費の一部助成

【継続予定】企業情報交換会事業費

地域内企業間の技術・情報の交流・連携を強化し、受発注の促進、企業のネットワーク構築を図る

【継続予定】一関産業集積推進協議会負担金

一関高度技術産業集積促進協議会を改組し、産学官連携による企業誘致により産業集積を図る

【拡充予定】企業立地促進奨励事業費補助

企業が工場等を新設するために要する経費の一部を補助する
補助額=当該固定資産投資額の10%または15%で3億円上限

【新規予定】県南技術研究センター機器整備事業補助金

(整備案)カラー3Dレーザー顕微鏡 1台

【新規予定】新工業団地整備構想策定事業費

新工業団地基本計画策定業務委託、環境調査

【継続予定】一関東第二工業団地整備

高付加価値産業の導入を目指し岩手県土地開発公社が造成。平成21年度一部分譲開始見込み。無利子貸